

表紙について 「緑化うど」

『緑化うど』は粉がらをうどの株に30cm程度かけて、光にあてず芽が10cmほど伸びてきたところで収穫する栽培方法です。香りも良く、茎の部分は柔らかく、茎・芽・葉すべて美味しくいただけます。

但東町でうど栽培が始まったのは、50年程前で、当初は試行錯誤の繰り返しで、失敗ばかりだったとか。今の栽培方法で安定出荷できるようになって40年くらいでしょうか。生産者戸数は多い時で11戸・12戸くらいだったようですが、現在は5戸となり、出荷数量は年々減ってきています。生産者の高齢化もあり、近年の夏の暑さの影響で育成がうまくいかず、栽培株数が減ってきていることも一因のようです。

それでも早春の風物詩として多くのリピーターの方がおられ、店頭に並ぶのを心待ちにされています。この時期にうどを食べると、体が目を覚ますような、元気になるような気がします。

実際、疲労回復を助ける成分（アスパラギン酸）が含まれています。早く食卓に並んでほしいですね。
（農地利用最適化推進委員 栗垣 一夫）



全国農業新聞
NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

全国農業新聞を購読してみませんか!

農業の最新情報を提供

週刊(毎週金曜日発行) **月900円**
(送料、消費税込)

***お申し込みは**
農業委員会事務局または、
地元の農業委員・推進委員
まで

編集後記

令和6年8月に起きた南海トラフ周縁部での地震発生を機に「令和の米騒動」に拍車がかかりました。猛暑による減収、インバウンド需要の増加、流通の混乱、需給見通しの誤算等が複合的に絡み合い米の取り合いが起きました。

米価が高騰する中、「適正価格」とはいくらなのかと問題視されました。米に対する関心が高まる中で、食生活の見直しを考ずる機会が到来しました。米消費拡大が叫ばれて久しいですが、消費量は減る一方です。昭和37年(ピーク時)に食された米が一人当たり11.8kgであるのに対し、令和6年には5.3kgとなっています。食の欧米化により小麦、肉類の消費が増えていきます。見落としてはいけないのが野菜、果物の摂取量の低下です。厚生労働省が推奨する1日摂取目標量は、野菜は350g、果物は200gですが、実際には目標に大きく不足しております。原因として核家族化、女性の就業率の上昇があり、ひと手間かけて調理する文化が衰退しています。

健康維持、健康寿命延伸のためにも食生活を改善しませんか? 野菜、果物の摂取量低下は生産量低下にも影響を及ぼします。先祖から受け継いだ農地を有効利用して自給率の向上を目指しましょう。
(編集委員長 西沢 泰裕)



農委だより第63号は私たちが担当しました。

- 後列左から 石原委員、仲川委員、宮岡委員、大谷委員、栗垣委員、山根委員
前列左から 和田委員、村田委員、西沢委員、川見委員、足立委員